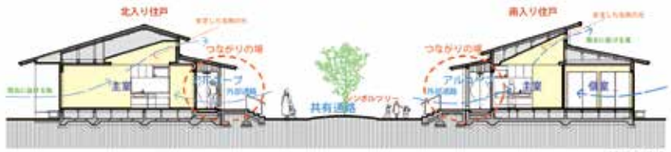
完成プロジェクト

宇土市営境目団地災害公営住宅

くまもとアートポリスが
プロジェクトとして取り組んだ
初の災害公営住宅。
孤立を防ぐ「つなぎ」の空間が実現

「あんしん」と「あたたかさ」と「ふれあい」のある熊本らしい災害公営住宅を目指し、住戸の中の暮らしの気配が外からも感じられるような工夫や仕掛けが施されている。住戸前の共用廊下に設けられたくぼんだスペース（アルコーブ）は、住戸に入らなくても気軽におしゃべりができたり、洗濯物干しになったりする。住人が相互に緩やかな見守りができる公営住宅が完成した。

- ●構造・階数　木造・地上１階
- ●延べ面積　敷地１　1,098.91㎡
  敷地２　71.31㎡
  敷地３　347.85㎡
- ●設計者　内田文雄＋西山英夫
- ●施工者　中村・昭和建設工事共同企業体
  株式会社西田電工
- ●建築主　熊本県・宇土市
- ●竣工　2018年9月



断面の構成

株式会社龍環境計画　内田 文雄 氏

地震で被災した人たちが、光と風に包まれ、安心して暮らせる住まいをつくりたいと思いました。長屋型の特徴を生かし、玄関の廻りに住民相互の緩やかな見守りが出来る場所を設けました。つながりが生まれ、まちが育って行くことを期待しています。

西山英夫建築環境研究所　西山 英夫 氏

被災者という直接の住まい手を見据えて、少しでも豊かな住環境を創りたいと思いました。限られた時間と予算の中で、多くの人々の献身的な協働により、創造的復興の一助になれたかと安堵しています。

株式会社中村建設　山下 雅士 氏

良い住宅を出来るだけ早く完成させたいという思いで、天草の職人集団を中心に現場近くに泊まり込みながら、県、宇土市、設計者とともに、心をひとつにして工事に取り組みました。その結果、予定工期より早く引き渡すことができ、ほっとしています。

落成式・完成見学会

9月29日の落成式に合わせて、熊本地震からの住まいの再建の進捗や災害公営住宅におけるアートポリスプロジェクトの取組みを周知する機会として、完成見学会を開催した。
落成式には、知事、宇土市長、工事関係者などが参加し、知事はあいさつで、「県産木材がふんだんに使用され、入居される方々のコミュニティに配慮された、あたたかみのある住宅となった。被災者の心の復興につながることを期待している」と述べた。
完成見学会では、県内外から50人を超える方が参加し、設計者・施工者の説明を受けながら、住戸内や団地全体を見学した。

参加者コメント

非常に落ち着いた色合いでよかった。アルコーブのつくり方など見守りができる住宅がよかった。
（30代 建築士事務所）

施設見学をとおして、向いあった住棟から中庭にコミュニティを感じた。住戸の中も広く、普通の住宅と変わらない広さでよかった。　（20代 学生）

各棟の外壁の色分けが非常にきれいだった。それぞれが異なる色だが、統一感があった。45㎡の住戸も広く感じられ、風が気持ちよかった。　（20代 学生）

完成プロジェクト

甲佐町営乙女団地災害公営住宅・白旗団地災害公営住宅

土間空間や庇で
お互いの気配を感じる
雰囲気づくりが施された
農家型の災害公営住宅

この地域の方は、収穫した野菜や農作業の道具が身近にある生活をしている。収穫したものを置いたり、ちょっとした作業やリビングの延長として使用することが可能な土間空間が提案された。庇により内外が連続した空間や、各部屋が大きなワンルームのような空間は、誰もが魅力的に感じる空間である。敷地には共有の広場があり、お互いの顔が見えるコミュニティづくりにも配慮されている。

乙女団地

白旗団地

- ●構造・階数　木造・地上１階
- ●延べ面積　（乙女団地）765.17㎡
  （白旗団地）561.45㎡
- ●設計者　工藤和美＋堀場弘
  /シーラカンスK&H
- ●施工者　（乙女団地）
  株式会社木村建設
  大光電業株式会社
  株式会社金剛設備工業
  （白旗団地）
  株式会社有江建設
  大光電業株式会社
  株式会社金剛設備工業
- ●建築主　熊本県・甲佐町
- ●竣工　2019年1月

シーラカンスK&H　工藤 和美 氏

農村文化を身近に感じ、近隣とのコミュニティを再構成しつつ、多世代にわたり長く住みつないでいける計画としました。この住宅が、地震の多い日本での災害公営住宅のひとつのありかたを未来へ提示する建築になることを願っています。

シーラカンスK&H　堀場 弘 氏

被災者が新しい家に移っても、安心し親しみを持って暮らせるように、懐かしい雰囲気を持ちつつも、新しさも感じられるような住宅を目指しました。大きな庇の下で、近隣とのつながりが再び育まれることを願っています。

乙女団地

白旗団地